



写真で見る

まちの話題

= TOWN TOPICS =



町内の園児たちが絆を深める 6/23

にいはるこども園で「町内こども園合同ふれあい交流会」が開かれ、にいはる、つきよの、水上わかくりの3園の5歳児が遊びを通して交流を深めました。この交流会は、小学校入学を見据えた友だちづくりを支援するため、今年で3年目の開催です。新たな友だちと顔見知りになることで、登校時の不安を減らし、小中学校での安心した学校生活につなげることを目指しています。



▲「かもつ列車」で交流を深める園児たち



未来構想フォーラムを開催 6/16

「群馬県未来構想フォーラム2026 inみなかみ」が道の駅みなかみ水紀行館で開催されました。このフォーラムは、未来の群馬や地域の課題について県民と一緒に考える場として、県内全市町村で順次開かれています。当日は知事による未来構想の提案や町長のスピーチに加え、参加者と知事の活発な意見交換が行われ、多様な視点から県や町の未来を考える貴重な機会となりました。



▲阿部町長(左)、山本知事(右)



スポーツ少年団ヘインソールを寄贈

6/23

株式会社BMZより、こどもたちのスポーツ活動を応援しようと、インソールの寄贈をいただきました。今回の寄贈は「スポーツ足下支援プロジェクト」の一環として行われたもので、野球やサッカー、陸上競技など、日々スポーツに励むこどもたちの健やかな成長を願って贈られたものです。

いただいたインソールは、町内のスポーツ少年団に登録し、活動に参加するこどもたちへ配布させていただきます。



▲たくさんのインソールを寄贈していただきました



みなかみえんにちを開催 6/27

月夜野ホテルの里の観賞期間に合わせて「月夜野ホテル観賞のタベ～みなかみえんにち～」が開催されました。オープニングでは、上州月夜野矢瀬太鼓による力強く迫力ある演奏が会場を魅了しました。会場内では、キッチンカーの出店やワークショップ、じゃんけん大会、そうめん早食い大会、お楽しみ抽選会など、多彩な催しが行われました。

おいしいグルメと楽しいイベントが会場を盛り上げ、多くの来場者でにぎわいました。



▲そうめん早食い大会の様子



まちの話題

= TOWN TOPICS =



ずいほうそうこうしょう

中塚さんが瑞宝双光章を受章 7/2

27年に渡り保護司を務められている中塚菊雄さん(羽場)が、永年の功績が認められ、瑞宝双光章(更生保護功労)を受章しました。叙勲は、国家や公共に対して功労のある人や、社会の各分野で優れた功績のある人などを国が表彰するもので、中塚さんは保護司の活動を通して、安全で安心な地域社会づくりに貢献されてきました。

今回の受賞を受け中塚さんは、「みなさんのおかげで続けてこられました」と話されていました。



▲中塚 菊雄さん(左)、阿部町長(右)



こんじゅほうしょう

小田原緑化開発へ紺綬褒章を伝達 6/15

紺綬褒章伝達式が行われ、小田原緑化開発株式会社に阿部町長から章記が伝達されました。

紺綬褒章は、国の栄典制度の1つで、公益のために私財を寄附された個人または団体に授与されるものです。今回の褒章は、小田原緑化開発株式会社が令和7年3月に、現金1,000万円の寄附をされた功績に対し、天皇陛下から授与されたものです。



▲町長室にて行われた伝達式の様子



「社会を明るくする運動」を展開 7/1

7月1日から1か月間を強化月間とし、「犯罪や非行を防止し、立ち直りを支える地域のチカラ」をスローガンに「社会を明るくする運動」が全国一斉に展開されました。今年で第76回目を迎え、町の保護司と更生保護女性会の役員が町長を訪問し、保護司の島田悟朗さん(相俣)が内閣総理大臣メッセージを、町更生保護女性会長の高橋千恵さん(下牧)が群馬県更生保護女性連盟のメッセージをそれぞれ手渡しました。



▲町の保護司・更生保護女性会役員のみなさんと阿部町長



ポンプ操法競技会で入賞 6/7

令和8年度群馬県消防協会利根沼田支部消防ポンプ操法競技会が、沼田公園広場で開催されました。みなかみ町の代表として、ポンプ車の部で第8分団、小型ポンプの部で第1分団が出場し、日頃の訓練の成果を披露しました。ポンプ車の部では第3位入賞、小型ポンプの部では第8位の成績となりました。本競技会に向け、練習を積み重ねてこられた選手ならびに分団員のみなさん、大変お疲れ様でした。



▲3位入賞を果たした第8分団員



まちの話題

= TOWN TOPICS =



「利根川源流から広がるいのちの恵みを永遠につなぐ連携協定」を締結 6/14

みなかみ町は、公益財団法人イオン環境財団と、当町の豊かな自然を未来へつなぐための連携協定を締結しました。締結式は、みなかみ町がユネスコエコパークに登録されてから9周年にあたる記念すべき日に行われ、会場では「木育キャラバン」も開催され、たくさんの親子連れで賑わい、笑顔あふれる中、新たな一歩を踏み出しました。

イオン環境財団とは、ユネスコエコパーク登録以来、こどもたちの環境活動や里山保全など、連携して活動を進めてきました。今後、イオン環境財団の知識やネットワークを活かし、みなかみ町の里山資源の活用、地域の魅力づくり、そして自然の中での環境教育などをさらに推進します。



▲阿部町長(左)、イオン環境財団 山本専務理事(右)



▲イオンチアーズクラブ みなかみユネスコエコパークでの体験活動



▲イオンモールでの体験発表

今こそあらためて

みなかみユネスコエコパーク について語ろう Vol.3

祝・ウッドスタート宣言10周年！

～ユネスコエコパークの町が育む「木育」～



みなかみ町が「ウッドスタート宣言」を行ってから、今年7月で10周年を迎えました。これは、子育てに木のぬくもりを取り入れ、地元の豊かな森林資源を未来へつなぐ大切な取り組みです。総面積の90%以上を山林が占めるみなかみ町は、「自然と人間社会の共生」を目指すユネスコエコパークの町です。この自然を暮らしの豊かさに循環させる根幹として、町では乳幼児期からの「木育」に力を注いできました。誕生した赤ちゃんへ贈られる町内産木材のカスタネットとラトルには、職人の手で名前や体重が刻印され、地域の産業も支えています。

また、「木育キャラバン」の開催や、「木のたまごボール」の設置など、こどもたちが五感を使って木と触れ合う機会を広げてきました。木の心地よい香りや音は、こどもの感性を刺激するだけでなく、保護者の心も癒やしてくれます。来年2027年には「おもちゃ美術館」の開館も予定されています。これからも木のぬくもりを体で感じながら、自然と共に生きる持続可能なまちづくりをみんなで進めていきましょう。

ユネスコエコパークをめぐる主な8月のうごき

- 8月6日 谷川岳登山道整備プロジェクト
- 8月6日～7日 全国幼児教育研究大会群馬大会
(みなかみの木育を体験)
- 8月11日 こどもパークレンジャーイベント(環境省との連携)
- 8月24日 イオンチアーズクラブ環境学習(谷川岳周辺)
- 8月26日 みなかみユネスコエコパーク協議会
- 8月27日 平標山登山道整備プロジェクト

お詫びと訂正

広報みなかみ令和8年7月号(16ページ)に掲載した記事について、タイトルの表記に誤りがありました。お詫びして訂正いたします。
誤:「MINAMAI TOWN.EXEが藤原小学校を訪問」 正:「MINAKAMI TOWN.EXEが藤原小学校を訪問」



7月6日

「森のスターバックス プロジェクト」が スタートしました



▲スターバックス
ストーリーズ特設サイト

2025年4月21日

包括連携協定の締結

町とスターバックス コーヒー ジャパン株式会社(以下、スターバックス)が「利根川源流から始める豊かな森林と人を育む連携協定」を締結。未来の森と人を育てるパートナーシップがスタートしました。



2025年5月～

町内で森林整備がスタート

5月以降継続して行ってきた森林整備には、県内28店舗の店長をはじめ延べ約300人のパートナーが参加。町の関係者や高校生延べ約200人とともに汗を流してきました。豊かな森林を育むだけでなく、活動を重ねるごとに「人と人とのつながり」が森を通じて深く育まれています。



2025年7月～

体験を通じた自然環境への理解

森林整備に加え、利根川源流の採水地見学や農業体験なども実施。実際の体験を通じて、町の取組や森林が持つ多面的機能への理解を深めました。



2026年1月～

県立利根実業高校と連携

持続可能な林業を学ぶ高校生が、実際の森林整備や竹炭づくり、スターバックスとの交流を通じて「働くこと」について深く考えるとともに、次世代の担い手を育む地域協働へと繋がりました。



2026年7月6日

「森のスターバックス プロジェクト」スタート

これまでの活動をさらに発展させ、間伐材の独自活用や環境教育の拠点を町内に構築する、先進的な協働プロジェクトが本格的に幕を開けました。

なぜ、みなかみ町なのか

① 環境先進自治体としての実績

ユネスコエコパークへの登録に代表される本町の優れた環境への取組と自然保護に対する真摯な姿勢が、スターバックスの目指すサステナブルな理念と強く結びつきました。

② 首都圏とのつながり

首都圏約3,000万人の暮らしと命を支える利根川の「源流の町(水がめ)」として、都市の生活に直接結びついていること、そしてアクセスにも非常に優れているという独自の立地特性が、パートナーシップを結ぶ上での大きな価値(魅力)となりました。

③ 森林を起点に課題解決を目指す町のビジョン

少子高齢化や産業の担い手不足という課題に対し、豊かな森林資源の活用や木育の推進によって地域経済の活性化を目指す本町のビジョンに、スターバックスが深く共鳴したことが、プロジェクトの原動力となっています。

「森のスターバックスプロジェクト」-スターバックス、4つのアクション-

町の森林資源やフィールドを活用した、これまでにない持続可能な取組が展開されます。

① 未利用間伐材の建築材への活用試験

流通しにくかった規格外の間伐材を、店舗の建材として活用するための耐久試験を町内で開始しました。木材の廃棄率を下げ、林業の活性化を目指します。

② 独自の環境教育プログラム

町内の森をフィールドに、全国の店舗から集まる社員が森林整備などを体験。森の大切さを学ぶとともに、本町の魅力を全国へ発信する拠点を構築します。

③ コーヒーかすを使ったたい肥づくり

県内店舗のコーヒーかすと、町内の森の素材(落ち葉など)を組み合わせたサステナブルなたい肥づくりを行い、自然の力を生かした資源循環に挑戦します。

④ 山どり苗の保育園制度

日本自然保護協会の協力のもと、町内の森の稚樹を県内店舗で大切に育てた後、再び本町の森へと戻す未来への植樹サイクルです。

※森は教育を目的とした場であり、店舗機能はございません。

また、一般公開も行っておりません。

森林整備をする意義

森は、雨水をたくわえ、きれいにろ過して川へ流す「緑のダム」です。森林整備をすることで、木や土が元気になり、災害を防いだり、たくさんの生き物を育てたりしてくれます。わたしたちが飲むおいしい水と豊かな自然は、この森の力に支えられているのです。





みなかみ町は、国内外7都市と友好協定を締結し、相互の地域の発展を目指して、観光や物産のほか教育・文化・スポーツなど幅広い分野で交流を深めています。こうした交流は、新たな学びや出会い、地域の魅力の再発見など、さまざまな実りをもたらしています。

台湾・台南市 との交流——

人口約185万人を有する台南市は、台湾南西部に位置する歴史ある都市。「台湾の古都」として知られ、豊かな歴史と食文化に彩られた魅力あふれるまちです。



学校給食に台南マンゴーが登場

友好都市協定を結ぶ台湾の台南市政府から、旬を迎えた特産のアップルマンゴーがみなかみ町へ届き、町内すべての小学校1・2年生に学校給食の際に提供されました。完熟した濃厚な甘みのマンゴーを味わった児童・生徒たちからは、「初めて食べた!」「甘くてとても美味しい!」「マンゴーを食べに台南へ行ってみよう!」といった喜びの声

が次々と聞かれ、多文化への興味を抱く特別な給食の時間となりました。

また、7月15日にはマンゴーの日ということで、町内全小中学校の児童生徒の給食に、マンゴーを使ったデザートを提供し、台湾の旬のフルーツを味わっていただきました。



▲月夜野小学校でのマンゴー入り給食



▲水上小学校にて



▲みなかみ中学校にて

台南市ボーイスカウトが訪町

台南市のボーイスカウト団25名が7月3日から7月8日までの6日間、群馬県を訪れ、みなかみ町に3日間滞在しました。たくみの里や谷川岳ヨッホを訪れ、地域の自然や文化に触れながら交流を深めました。昨年11月にみなかみ町議会と台南市議会が友好協定を結んだことをきっかけに、台南市ボーイスカウト協会理事でもある沈家鳳議員の提案で今回の交流が実現しました。沈議員は温かいもてなしに感謝し、今後はスポーツや教育、文化など多方面で日台交流を促進したいと語りました。



▲今回の交流の様子

これからの地域づくりを考える

講演会が開催されました



高崎経済大学の櫻井常矢教授を講師に迎え、これからの地域づくりについての講演会を開催しました。

講演では、人口減少や高齢化による担い手不足など、今の地域の状況を全国の事例とともに紹介し、これからの地域づくりのヒントが語られました。

人口減少時代の地域づくり

人口減少や高齢化が進み、全国的に地域の担い手不足が深刻化しています。町内でも、これまで続けてきた地域活動を維持していくだけでも大変だったり、地域のイベントに人が集まらなかったり、地区の役員が決まらなかったり、さまざまな課題が生じています。

これから先も安心して暮らしていける地域をつくるために、持続可能な地域のあり方を話し合ってみませんか？



【募集】地域で“話し合い”をやりませんか？

講演会の最後に、櫻井先生から「地域の話し合いからやってみませんか」と呼びかけがありました。

そこで町は、これからの地域づくりについて話し合いを行う地域を募集することにしました。

櫻井先生と一緒に、これからの地域について話し合ってみませんか？



高崎経済大学
地域政策学部 教授

櫻井 常矢氏

(主な社会活動)

総務省 地域力創造アドバイザー

全国各地の地域づくり政策アドバイザーなど

【お問い合わせ】

企画課 企画調整係

☎ 0278(25)5030